

田村直臣 直臣 牧師。安政五年八月九日大坂生れ、昭和九年一月七日歿（一八六一—一九三四）。舊姓淺羽、幼名藤三郎。初の漢學を吉田某の學び、師の周旋で四條家の家臣田村豊前守の養子となる。明治初年上京、米國長老協會を経営、カラヅルス主任の築地大學校に入り、七年受洗。十年東京一致神學校入學、十二年十一月フルベツキより按手禮を受け、銀座教會（のうち京橋教會）牧師となつた（俸給月額五圓）。また植村正久、小崎弘道、井深槌之助、平岩愼保等と日本基督教青年會を創設、りんがひ『六合雜誌』創刊にも参劃した。十五年及田村派の策謀による交通事件が起り、教會を去る。その後アメリカへ渡り、オーバートン神學校を卒業、プリンストン大學にも籍を置き學位を得た。歸國後は再び京橋を改稱して數寄屋橋教會の牧師となる。

二十一年自營館を開設して苦學生の援助を始め、リチャード、ニエートン原著『こどもみち童家道』を訳す（明治二十一年十一月十号号屋）、『たいしや對聖書辭典』（明治二十三年三月二十九日自刊）等を譯編刊行。二十四年自營館の擴張資金募集のためアメリカへ行き、一年間滞在。その折同地へ出版した英文著書『日本の花嫁』が、誤つた日本の内情を海外へ暴露したとして教界内外の批判を浴び、結果日本基督教會を離れ、爾後數寄屋橋教會を獨力で維持。また足尾銅山鑛毒事件に一時關與するほどしたのち、二十二年福音同盟會に協力、兒童の宗教教育に當る。二十八年東京YMCAの發起人となり、翌年日本自體學校協會設立の際に文學委員長、更に會長として盡瘁。大正八年築鴨教會に移り、異ちがひに自營館を改稱して田村塾を廢止して、大正幼稚園を開設した。

その他の著書に、『眞の神を信する理由』（明治二十年十一月基督教會

類會社）、『イスラエルの物語—宗教教育教科書・小學校第四年』  
（大正十年六月十五日警醒社書店）、『信仰五十年史』（大正十二年十二月二十八日警醒社書店）、大正幼稚園出版部からは『兒童中心のキリスト教』（大正十四年九月一日刊）、『宗教々々の手引』（昭和二年八月十五日刊）、『牧會漫談』（昭和二年九月二十日刊）等を出版。また昭和四年腦溢血に倒れ、一年以上の病中の執筆とした『一日一笑』（昭和六年一月十一日新生堂）は、過去千度公及ぶ洋行中の話を始め、へこの笑詩中には私の全歴史が盡まかれて居るゝといふ多くの注目すべき逸話を含む異色の著作。その後『我わが見たるみ植村正久と内村鑑三—附録牧會漫談』（昭和七年十月五日向山堂書房）を著はす。

